

令和7年度の市政経営に関する基本方針(骨子)案

【通達本文】

- 令和7年度の位置付け
- 市政を取り巻く状況
- まちの将来像の実現に向けて

【記書き以下】

- 市政経営の基本的な考え方
 - ・参加と協働のまちづくり
 - ・効果的・効率的な行財政運営
- 前期基本計画の推進
 - ・重点プロジェクトの取組
 - ・施策推進及び成果向上に向けた視点
- 結び

＜文章化の際のイメージ＞

- ☑基本的な構成は前年度と同様
- ☑取組のポイント(特徴)を整理
- ☑要点を絞り簡潔に記載

＜参考:令和6年度市政経営の基本方針＞

- 令和6年度の位置付け
 - 市政を取り巻く状況
 - まちの将来像の実現に向けて
- (記書き以下)
- 1 市政経営の基本的な考え方
 - (1)参加と協働のまちづくり
 - (2)効果的・効率的な行財政運営
 - 2 前期基本計画の推進
 - (1)重点プロジェクトの取組
 - (2)施策の推進及び成果向上に向けた視点

●令和7年度の位置付け

【通達本文】

前期基本計画の3年次目
市制施行70周年
ハード面のまちづくりの節目

年度	平成 (西暦)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)
基本構想	第6次調布市基本構想(令和4年12月議決・策定) まちの将来像『ともに生き ともに創る 彩りのまち調布』								
基本計画	前期基本計画				後期基本計画				

○前期基本計画(令和5年度～令和8年度)の3年次目

※下半期からは、後期基本計画の検討に着手

○市制施行70周年(昭和100年), 戦後80年, 国際交流平和都市宣言35周年, 木島平村姉妹都市盟約40周年 など

※市政運営における複数の節目

○調布駅前広場の完成(一部を除く)

※長年に渡る中心市街地における都市基盤整備の大きな節目

⇒**令和8年度からは新たなフェーズ**

※令和7年度までのハード整備を生かしたソフト面の充実, 明るい未来を展望

●市政を取り巻く状況

■市民の安全・安心の確保と市民生活支援

- ・震災(能登半島地震, 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意))を踏まえた, 各種支援・日常からの対策の推進
- ・日常生活上の不安の払拭や困難を抱える市民へのきめ細かな支援の実施などは, 引き続き, 市民に身近な基礎自治体としての責務
- ・物価高騰の市民生活や市内経済への継続的な影響

■健全な財政運営

- ・社会保障関係経費や公共施設マネジメント関連, 都市基盤整備など様々な課題への対応も含めた財政需要の増大
- ・市税収入は堅調さを維持しているものの, ふるさと納税に伴う財源の流出の拡大傾向が継続(令和6年度の減収影響は約16億円)
- ・経費縮減及び財源確保の両面から, 健全な財政運営を維持

■重要課題への対応

- ・災害対応能力の向上(地震, 風水害), デジタル化・DX推進, 困難を抱える市民(生活困窮, ヤングケアラー, 不登校, ひとり親家庭)への支援, 共生社会の充実(高齢者, 障害者, 多様性), 市内経済の活性化(にぎわい創出, 集客・回遊・消費), 都市基盤整備(調布駅前広場整備), 脱炭素・資源循環型社会の形成

●まちの将来像の実現に向けて

ともに生き ともに創る 彩りのまち調布

■共生社会の充実・人にやさしいまち

◎共生社会への想い

- ・「パラハートちょうふ」の理念の普及・啓発, 対象範囲の拡大
(障害理解促進に加え, 一人一人の個性の尊重に資する多分野での展開)
- ・2025年デフリンピック開催(日本で初開催)を契機とする取組

■共創のまちづくり

◎産学官民の多様な主体による連携

- ・「参加と協働のまちづくり」の中で, 多様な主体と連携し, 適切な役割分担の下, 多様化・複雑化する地域課題を解決
- ・調布スマートシティ協議会(構成団体の技術・ノウハウ)を活用し, 市民ニーズや行政課題への的確に対応(取組検討・実証の推進)

■にぎわいとうるおいある魅力に満ちたまち

◎地域の特性や資源等の活用

- ・ソフト・ハード両面を生かしたまちの魅力をさらに高める取組
- ・ゼロカーボンシティの実現, デジタル技術の活用による利便性向上

□市政経営の基本的な考え方

市政経営の基本的な考え方である「参加と協働のまちづくり」と「効果的・効率的な行財政運営」を踏まえ、限られた経営資源を効果的・効率的に最大限活用しながら、不断の行政改革を推進

・参加と協働のまちづくり

【共創のまちづくりの実践】

- ⇒ 市民参加と協働, 多様な主体との連携・産学官民の連携による社会課題の解決, 市民の自主的な活動の支援, 調布スマートシティ協議会の活用
- ⇒ 市民との情報共有 (多様な広報メディアの効果的な活用)

・効果的・効率的な行財政運営

【行政のデジタル化推進】 【効率的な組織体制の整備】

【人材の確保・育成】 【計画行政の推進】

【公共資産の有効活用・最適化(ファシリティマネジメント)】

- ⇒ 事務の簡素化・効率化, デジタル化・DX (どこでも市役所, 内部事務検証・改善)
- ⇒ 働き方改革, 生産性向上, 民間活力活用, 効率的な組織人員体制, 人材育成
- ⇒ 経常経費の縮減, 財源の確保・財政負担の抑制, 健全な財政運営
- ⇒ 公共施設・インフラマネジメントの推進 (調布駅周辺大型公共施設, 学校施設, 事務所施設, 計画的な維持・保全, コストの最適化)

□前期基本計画の推進

・重点プロジェクトの取組

【重点1:防災・減災, 防犯】

地域防災力向上(意識醸成, 自助・共助, 近隣市連携), 避難支援プラン(個別避難計画), 擁壁・がけ安全対策, 耐震化, 浸水対策, 特殊詐欺被害防止対策

【重点2:子ども・若者, 子育て支援, 学校教育】

切れ目ない支援, 子・若支援, 児童虐待防止, ICT教育(機器更新), 適応指導教室, 不登校児童・生徒支援, 子ども家庭センター, ヤングケアラー支援, 部活動地域連携

【重点3:地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉, 健康づくり】

地域包括ケア, 重層的支援体制整備, 認知症対策, 介護予防, 医療的ケア, 基地跡地福祉施設整備, 手話言語・意思疎通条例の運用, 総合的ながん対策, 歯と口腔の健康

【重点4:市街地整備, 地域経済, 文化芸術, スポーツ】

調布駅前広場整備, 東部地域の交通環境改善(連立事業の促進), 地区計画制度等を活用した街づくり, 地域経済活性化, 地域資源の活用, 文化芸術振興, デフリンピック

【重点5:脱炭素・循環型社会, 水と緑, 環境保全】

地球温暖化対策, ゼロカーボンシティ(多様な主体との連携・全庁推進体制), 自然環境保全(深大寺・佐須地域・崖線緑地), 都市農地保全, ごみ減量・資源化

□前期基本計画の推進

・施策推進及び成果向上に向けた視点

すべての施策において以下の4つの視点からの取組を推進

『デジタル技術の活用』

国や東京都が示すデジタル化の方針を踏まえ、デジタルデバイド対策に留意しながら、行政手続や市民サービスにおいてデジタル技術等を活用し、市民の利便性を向上
⇒デジタル化総合戦略1.0に基づく取組の推進(どこでも市役所, システムの標準化・共通化, 業務効率化, 人材育成, 地域社会のデジタル化), GovTech東京への参画

『共創のまちづくり』

多様化・複雑化する行政課題や市民ニーズに的確かつ柔軟に対応するため、多様な主体と連携した施策の展開
⇒多様な主体との連携協定に基づく取組, 調布スマートシティ協議会の更なる活用

『脱炭素社会の実現』

地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に基づく取組を市民・事業者・市が連携し推進(市においては事務事業編に基づく取組を並行して推進)
⇒ゼロカーボンシティ実現に向けた市の率先行動, 全体推進体制の運用, 市民一人一人の意識醸成, 再生可能エネルギーの利用, 循環型社会形成(3R・プラスチック対策等)

『フェーズフリー』

日常における施設機能や、サービス・利便性向上を図るものが、非常時においても役立てられる(利活用できる)という視点を踏まえた取組の継続
⇒施設整備・各種サービス・市民向け事業・関係団体等との連携

□結び

・令和7年度の市政経営におけるポイントや基本スタンスの再確認

→20年来の取組である中心市街地の都市基盤整備の完了

(ハード面での取組の大きな節目)

→市制施行70周年の節目

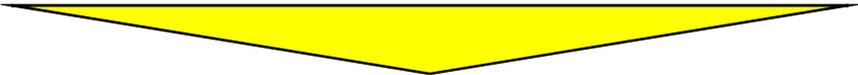
(市制施行以来の協力者への感謝, 次の10年間の展望)

⇒令和7年度までと令和8年度以降では, 取組のフェーズが変わる

ことについて, 認識を共有

※令和8年度以降を見通した中での令和7年度における取組の整理

※これまでのハード整備を生かしたソフト面の充実への展開を視野



市政の明るい将来展望を市民に示すため
取組の新たなステージへ